

開催日：平成29年6月5日

○疾病・事業ごとの課題

疾病・事業名	概要
7 疾病	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特殊な部位のがんは専門施設が行なってほしい ・ 手術対応できる医師や専門医の不在と治療設備の不足
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度医療救急は設備面で厳しいため、他圏域医療機関へ転送 ・ 専門医、専門看護師の不足 ・ 今後賀茂圏域として重点的に取り組むことは救急ではないか。
災害時医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地勢、地形的に診療可能な医療機関の確保
へき地医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回（訪問）での医療・看護の実施は人員の問題で困難 ・ 外来、入院、在宅における多職種連携の構築
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門医、専門看護師の不足 ・ 設備の不足
小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊豆東部病院に新たに小児科医 ※専門医は下田メディカル、河津クリニックの3医療機関に
在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での医療連携、体制構築を模索している。

○その他意見概要

- ・ 介護人材の不安感解消のため医療との連携が必要。
- ・ 糖尿病は他の機関との連携が可能であり、がんも医科歯科連携が出来る。
- ・ かかりつけ医の高齢化が課題。
- ・ 観光客が少ないときは各病院が一次救急に対応してはどうか。
- ・ 訪問診療や輪番制のことなど医師会としても連携していかなければならないと痛切に感じた。
- ・ 医師会の救急検討委員会を再開させたい。
- ・ 災害医療については、行政や看護師会、警察などと一緒に集まる会などが出来れば良い。各市町防災計画を立てる中で、医師会は呼ばれたことがない。各行政の方々にはオブザーバーでもいいから医療関係者を呼んでいただき、提案する機会を与えて欲しい。
- ・ この地域で何が足りないのか、困っているのかを明文化すること。
- ・ 基金を使うことをこのグループとして検討していただくことが大事。
- ・ 特定診療では専門性も必要であるが、予防という視点が大事である。予防に力を入れることで重症化を遅らせるなどのプランを立てる等が必要。
- ・ 県に人を出せというのは難しいため、保健師（行政）・診療所・病院等少ない人材で、全て丸抱えでやるしかない。
- ・ やれること、やれないことを明確にプラン立てして県へ要望していくことがいいのではないか。